

6月の都内経済状況







営業開発部

項目	天気図	コメント
現在の景気動向		6月の都内の景気は緩やかに回復している。百貨店・スーパー・コンビニエンスストアの売上は、いずれも3ヵ月連続で前年を上回り、乗用車販売も2ヵ月ぶりに前年を上回った。住宅着工は2ヵ月ぶりに増加し、公共投資は4ヵ月連続で増加した。輸出は12ヵ月連続で増加した。有効求人倍率は3ヵ月連続で上昇した。工業生産(5月)は2ヵ月ぶりに前月から減少した。27年度の設備投資計画(資本金1億円以上の法人企業)は、2桁の増加見込みとなっている。27年度上期の経常損益(法人企業)は、製造業は増益見込み、非製造業は減益見込みとなっている。
今後の見通し (3ヵ月)		都内の景気は引き続き緩やかな回復が期待されるが、中国などの海外景気の下振れなどが今後のリスク要因となっている。
個人消費費	百貨店売上高 	百貨店売上高は、前年に比べると降水量が少なかったことや、インバウンド効果などを背景に前年同月比4.6%増と3ヵ月連続で前年を上回った(既存店ベース)。主力の衣料品は減少したが、化粧品、美術・宝飾・貴金属は高い伸びを継続している。
	スーパー売上高 	スーパーの売上高は、前年同月比0.2%増と3ヵ月連続で前年を上回ったが、増加幅は前月から4.3ポイント縮小した(既存店ベース)。青果の相場高を背景に食料品は伸びたが、気温の低下で衣料品は不振だった。
	コンビニ売上(関東) 	関東地区のコンビニエンスストアの売上高は、前年同月比4.1%増と28ヵ月連続で前年を上回り(全店ベース)、既存店ベースの売上は、同0.6%増と3ヵ月連続で前年を上回った。
	乗用車登録台数 	乗用車販売台数(軽を含む)は、前年同月比7.0%増と2ヵ月ぶりに前年を上回った。車種別では、普通車(同14.9%増)は3ヵ月連続で増加し、小型車(同6.1%増)も11ヵ月ぶりに増加したが、4月から増税となった軽乗用車(同▲10.9%)は6ヵ月連続で2桁の減少となっている。
住宅建設		住宅着工戸数は、前年同月比27.7%増と2ヵ月ぶりに前年を上回った。利用関係別では、分譲一戸建て(同▲10.6%)は減少したが、持家(同4.9%増)、分譲マンション(同78.3%増)、貸家(同19.6%増)は増加した。
公共投資		公共工事請負金額は、前年同月比19.3%増と4ヵ月連続で前年を上回った。発注者別でも、国(同108.6%増)、独立行政法人(同81.2%増)、東京都(同5.3%増)、市区町村(同18.5%増)、地方公社(同18.3%増)がいずれも増加した。
貿易 (東京税関管内)		東京税関管内の輸出額は前年同月比14.7%増と12ヵ月連続で前年を上回った。主要地域別では、アメリカ向け(同20.0%増)、中国向け(同9.1%増)、アジアNIEs向け(同24.6%増)、ASEAN向け(同13.8%増)は増加したが、EU向け(同▲1.3%)は減少した。
設備投資 (資本金1億円以上の法人企業)		日本政策投資銀行「首都圏設備投資計画調査(27年6月調査)」によると、都内の法人企業(資本金1億円以上)の27年度の設備投資計画は、全産業が前年度比14.6%増の増加見込みで、業種別でも製造業(同17.9%増)、非製造業(同14.0%増)がいずれも増加見込みとなっている。
企業収益 (法人企業)		東京財務事務所「法人企業景気予測調査(27年4~6月期調査)」によると、都内の法人企業(資本金1千万円以上)の27年度上期の経常損益は、全産業が前年同期比▲2.9%の減益見込みで、業種別では製造業(同16.0%増)が増益見込み、非製造業(同▲13.3%)が減益見込みとなっている。
労働需給		有効求人倍率(季調値)は1.73倍と、前月から0.02ポイント上昇した。上昇は3ヵ月連続。先行指標とされる新規求人数は前年同月比17.0%増と3ヵ月ぶりに前年を上回った。南関東の完全失業率は3.4%で、前月から0.3ポイント低下した。完全失業率の改善は3ヵ月ぶり。
企業倒産		企業倒産件数は前年同月比▲7.7%と9ヵ月連続で減少し、負債総額も同▲32.1%と2ヵ月連続で減少した。1~6月累計の倒産件数は全体が前年同期比▲13.5%で、業種別では製造業(同▲9.8%)、情報通信業(同▲6.5%)、建設業(同▲34.0%)などが減少し、卸売業(同7.6%増)、サービス業(同7.7%増)が増加した。
資金需要 (銀行)		銀行の都内向け貸出残高は前年同月比4.6%増と46ヵ月連続で前年を上回ったが、増加幅は前月から0.1ポイント縮小した。増加幅の縮小は5ヵ月ぶり。

工業生産指数(季調値) ()は前年同月比%	工業在庫指数(季調値) ()は前年同月比%	消費者物価指数 ()は前年同月比%	(一〇メモ) 3年連続で増加した夏のボーナス 東京都が集計した都内民間555労組の2015年夏のボーナスの平均妥結額は754,560円、平均賃金の2.37ヵ月分で、リーマンショック後の2009年以降で最も高い水準。同一労組の前年比較で18,796円、2.55%増加した。伸び率が最も高かった業種は金属製品(同17.63%)だった。
3月 98.4 (▲7.0)	3月 113.2 (▲11.5)	4月 102.4 (0.7)	
4月 103.7 (▲0.5)	4月 106.4 (▲12.7)	5月 102.6 (0.5)	
5月 98.8 (▲7.6)	5月 110.7 (▲12.5)	6月 102.2 (0.3)	

*工業生産指数・在庫指数、消費者物価指数は2010年平均=100。*工業生産指数・在庫指数の前年同月比は、原数値による。

表は、都内経済の最新のデータを集めた当行独自のものです。なお、お天気マークは当部の判断です。

天気図表示の意味						
		晴れ	晴れ時々曇り	薄曇り	曇り	小雨